元気企業訪問
あいおい観光バス有限会社

新型バスを相次ぎ導入 安全性と快適性を訴求し 地域住民の 旅行ニーズに応える

機能優先で新型バスを導入

2014年9月にあいおい観光バス有限会社が新たに導入した中型バス（27人乗り）は、最新の設備がそろっています。万が一、前を走る車と接触しそうになったときには自動的にブレーキがかかり、蛇行運転を始めると警告音を鳴らすなど安全を守る機能が充実。また、座席部分のシートは落ち着いた柄を選び、座り心地を良くするためにシートの中のスポンジ部分、いわゆる“あんこ”を増やしました。テーブルや足置き、コンセントも付いています。

「かつてはシャンデリアなど派手な内装が好まれる時期もありましたが、今はお客さんが長時間の旅をいかに楽しく、ストレスなく過ごしていただけるかを考えています。その辺りの感性は息子に任せています」と東間堅史社長。専務の信幸さんを頼もしそうに見つめます。

実質返ってくる保証金がメリット

東間社長はかつて、ある会社でバス事業を担当していましたが、その会社がバス事業から撤退することになりました。担当していた地域の顧客からの「バスがなくなったら困る」という声に応え、創業したのが1998年のこと。保有バスは当初3台でしたが、地道にリピーターを増やしながら、徐々に導入を増やしていきます。

とはいえ、1台の購入価格は3千万円から4千万円と高額です。常に融資や手形をやりくりしながらの設備投資でした。ある時、バスを購入しているメーカーの担当者から、ひょうご産業活性化センターの設備貸与制度のことを知らされます。

「設備貸与制度の保証金は、最終的に割賦料に充当されることが大きな利点でした」

2008年に大型バスを導入して以降、09年、10年、そして14年と新規導入のたびに設備貸与制度を利用しています。

座り心地の良いシートで快適な旅を約束

岐路に立つ観光バス業界

観光バス業界は今、大きな転換点を迎えています。一連の高速バスの事故以降、国土交通省が安全に関する基準を厳しくするとともに、バス利用料金をそれまでの1日当たり料金から、距離、時間に応じて細かく料金を定めるように指導。4月から大幅に利用料金が上がりました。過当な価格競争が安全やサービスの質の低下を招いた反省に立ち、バス会社に安全への投資をさせるための料金改定といえます。

このため4月以降の利用客数が大幅に落ち込んでいます。「鉄道や飛行機と比べて以前ほどバスの価格メリットが感じにくくなっています。ただ、目的地までドアツードアで連れて行ってもらえるバスへのニーズは底堅い。安全、快適を追求していることが浸透すればお客さんは戻ってくるはずです」と専

務の信幸さんは言います。

何より同社にとっての強みは、運転技術に優れ、人柄の良いドライバーがそろっていること。ドライバーの中には、西播磨地域で唯一の女性観光バスドライバー、伊勢田絵美さんをはじめ、利用客から指名をされる人も多いそうです。「しばらくは我慢の時期。安全教育とともにバスの新規導入も図り、着実にお客さんを増やしていきたいと思います」と、足固めの先にさらなる飛躍を狙っています。

会社概要
あいおい観光バス有限会社

所在地　相生市汐見台6-8
代表取締役社長　東間堅史
事業内容　一般貸切旅客運送事業

TEL 0791-23-3100
URL http://www.aioibus.sakura.ne.jp/

支援メニュー講座　設備貸与制度

設備貸与制度の活用で経営基盤を強化

制度概要

設備等の増強・更新を図ろうとする中小企業の方に代わってセンターが設備等を購入し、中小企業の方に長期（10年以内）かつ固定金利（年率0.95％～2.20％）で割賦販売またはリースするものです。

メリット

最大のメリットは、金融機関の借り入れ枠や信用保証協会の保証枠とは別枠で利用できることです。また、設備貸与制度のみならず当センターは、曜日ごとに中小企業診断士等の専門家による無料の窓口相談を随時受け付けています。さらに当センターは中小企業支援機関との連携により県内企業を支援する「中小企業支援ネットひょうご」を活用し、経営・技術・情報などさまざまなサポート体制が構築されていますので、制度利用後のフォローアップを含めた手厚いサポートがあるのも特長です。

設備の更新、新規導入、省エネへの取り組みをご検討されている方はぜひ設備貸与制度の利用をご検討ください。

問い合わせは　ひょうご産業活性化センター設備投資支援室 TEL078-230-8801